



国際ロータリー第 2530 地区 郡山アーバンロータリークラブ

国際ロータリー第2530地区ガバナー 平井 義郎
郡山アーバンロータリークラブ 会長 白岩 邦俊
幹事 松川 義行



インスピレーションに
なろう

第 9 回 例会 H.30.9.5 (水) ☀

- ▶開会点鐘 国歌斉唱 ロータリー歌斉唱「奉仕の理想」
- ▶ロータリーの目的・四つのテスト唱和 采女真弓さん
- ▶ゲスト 菅野典雄様(飯舘村長)

会長挨拶

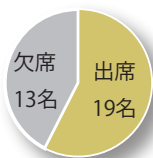
白岩 邦俊 会長

地区セミナーが合同で開催されておりますが、それでもかなりの数になります。9月1日の公共イメージ・ITチーム合同セミナーに参加しましたので、内容を皆さんにお知らせします。基調講演では、公共イメージ向上について話されました。地域にとって必要なことを他クラブと合同で行ったり、地域を巻き込んだり、長期的な目で活動することが必要であり、事業を行う前からメディアを巻き込み、イメージを一般に広めていこうということでした。ITチームのセミナーでは、マイロータリーの利用と「ロータリークラブセントラル」について説明されました。当クラブはマイロータリーの登録率 60%までと少しです。ITを使うことがこれからの活動に必要となることを感じました。

9月2日には奉仕プロジェクトセミナーに出席しました。これについては鈴木かおるさんから報告してもらいます。

出席報告

津野 順子 副委員長



総 員 32名
出席率 59.38%
前回修正率 66.67%

メイクアップ:鈴木かおるさん 鈴木尚子さん 藤田弘美さん

スマイルBOX報告

津野 順子 委員

- 😊 白岩 邦俊 ▶菅野典雄村長ようこそお越しくございました。よろしくお願いいたします。
- 😊 鈴木かおる ▶菅野村長お忙しい中ありがとうございます。
- 😊 鈴木 尚子 ▶菅野村長の卓話を楽しみにしております。
- 😊 佐藤 功一 ▶菅野村長の卓話を楽しみにしています。
- 😊 岩山 慎一 ▶菅野村長お疲れ様です。
- 😊 向山良作 😊 蔭山寿一 😊 采女真弓 😊 大山三起雄
- 😊 宮澤キヨ子 😊 宗形千鶴 😊 石堂勝壽 😊 橋本弘幸
- 😊 味戸誠一郎 😊 小林悦子

藤田弘美 米山記念奨学会委員長

8月19日に地区米山記念奨学会セミナーがありました。今年の米山記念奨学生は17名、継続が2名おりますので19名です。皆様からの寄付により運営されておりますので、よろしくお願いいたします。

9月の誕生祝

大山 三起雄 親睦活動委員長

安中利夫さんおめでとうござい
ます。



鈴木かおる 青少年奉仕委員長

郡山アーバンRC杯中学野球大会の閉会式が雨により翌日に順延となり、2日(日)に七中グラウンドで行われました。決勝戦が早く終わったために試合を見ることはできませんでしたが、優勝は七中、準優勝は明健中学校、3位は守山中と三中でした。10月の例会に熱海中の吉田先生が報告に来られる予定です。

2日の地区奉仕プロジェクトグループ合同セミナーに参加しました。社会奉仕委員会では、マイロータリーの「ロータリーショーケース」が紹介されました。水草回収は今年度から共催事業となり、10月に希望を募って行くことになりました。環境保全のペットボトルキャップ収集活動も、各クラブで集めて2社の回収業者に依頼することになりました。青少年交換委員会では帰国学生と来日学生が紹介され、2017-18年度のメキシコから帰国した県立視覚支援学校の学生の感想を聞きました。

理事会・幹事報告

松川 義行 幹事

- ①10月のプログラムが承認されました。
- ②例会数を減らすためのクラブ細則変更について、10月10日のクラブ協議会で行うこととなりますので、皆様の出席をよろしくお願いいたします。
- ③猪苗代湖水草除去参加の日程について協議されました。今年度は各クラブが自由参加となり、10月6日第3回天神浜に参加することに決定しました。
- ④残念ですが退会申し出がありました。

プログラム/ゲスト卓話

ゲスト紹介

向山 良作 社会奉仕委員長

お忙しい中を飯舘村長の菅野典雄様においでいただきました。震災以来、東奔西走されて村の復興のために尽力されている村長から、現状と将来の展望についてお聞きしたいと思います。著書をいただきましたので、皆様にお配りしました。



プログラム／ゲスト卓話

菅野典雄 飯舘村長



皆さんからいろいろご支援をいただきましたことに改めて御礼申し上げます。震災による多くの経験をしましたのでいろいろな話をすることもできますが、食後ですので消化に良い人生の話などをして、少しだけ復興の話をさせていただきたいと思います。

私たちは神様から人生の片道切符しかもらっていません。往復切符をもらえれば帰りの切符でいろいろなことができるのですが、地位の高低やお金の有無にかかわらず誰もが片道切符しかもらえません。二度とやってこない人生をどう生きるかという中で、皆さんは奉仕の精神という素晴らしい活動をされていると思います。私たちは何度か「あ、あの時」という、人生の分かれ道があると思います。どんな学校に入ったか、どんな職に就いたか、どんな結婚をしたか、よく考えてみると毎日の中に、どちらにしようかと迷うことがたくさんあります。

選択肢が 2 つしかないなら、できるだけ挑戦するか、やっても仕方がないと逃げるか、どちらを選ぶかを何十年か続ければ、かなり違う人生を歩む気がします。さらに常にいろいろなものに挑戦することを選ぶ方が、いざ本当に人生の分かれ道にあった時に、おのずと良い道を選ぶ決断力、判断力が付くものであり、良い情報が集まったり、助けてくれる人脈ができていないかという気がします。少なくとも人生の分かれ道というのは、毎日の中にあるいくつかの選択の積み重ねであり、毎日を大切にしなければならないと思っています。

20 年ほど前に、日本は第三の転換期にあると有識者が言っていました。第一は明治維新、第二は戦後です。武士の時代、軍人の時代が終わりを告げて、日本は大きく変わりました。先人が一生懸命にやってきてくれたお陰で、今こうして平和な日本に私たちは暮らしていられます。残念ながら第三の転換期に我々は気づかず、「失われた 20 年」とされてしまいました。その結果が今回の原発事故であったという気がしております。

その辺をしっかりと読む柔軟な考え方、バランス感覚がないと、家庭も会社も自治体も大学さえも、潰れないという保証は全くないという時代ではないかと思います。そういうことを気づいていれば、もっといい日本になったはずですが、なかなか時代の流れを読むという柔軟な考え方につながりませんでした。先を見る目や柔軟性、バランス感覚を、我々は意識して取り入れていかなければならない気がします。

震災に遭ってから、大変な思いをずっとしています。しかし、なってしまったことをいくら言っても何ら解決にはなりません。むしろこの震災をうまく活用・利用する、あるいは逆手に取る方法はないかということが、飯舘村の基本的な考え方です。ある意味では加害者である東京電力や国と対等の立場で、いつも冷静に話し合いをしてきています。そのせいか、普通ではできないことをたくさんやっていただけていますが、現実にはいろいろな課題があります。私も職員も大変忙しい毎日の中で、一番大切なことを忘れてしまうのではないかと心配しています。一番大切なことは、この原発事故から学び、次の世代にバトンタッ

チしなければならないことだと思います。

ものが豊富で自動販売機もコンビニも 24 時間いつでも動いている中で、国の財政は 1 千兆円を超える借金がどんどん増えており、赤ちゃんを含めて 1 人 850 万円の借金を背負っているという状況があります。もっと便利で豊かで幸せになりたいと思えば、当然エネルギーが必要になり、また原発が増えていくことになりはしないかということです。原発事故から学ぶことは、少なくとも生き方を考える時期に来ていることであり、それが第三の転換期ではないかと思います。成熟社会の中で、どういうふう to 成長していくかという考え方をしないと、次の世代にもっと大変な世の中を伝達することになりはしないかということ、今までも少しは考えてきましたが、震災に遭った中で、さらに深く考えるようになりました。

震災以来、「地球がふたつ必要です」という新聞広告が何度も出ています。私たちが今の暮らしを続けると、2030 年には地球ふたつ分の資源が必要になるそうです。ある雑誌社の広告では「いい国を作ろう、何度でも」として、マッカーサーがパイプをくわえて飛行機から降りる写真を出しています。この写真の時から今の民主主義の日本ができたわけですから、原発からもう一度いい国を作って次の世代にバトンタッチしようということだと思います。コラムニストの天野祐吉さんは、日本を「別品」の国にしようと言われて亡くなられました。お金をあちこちに配るだけでなく、尊敬される日本になっていくことが大切ではないかということです。そんなことに気づききっかけに原発事故がなってくれば、私たち的大変さは次の世代の役に立ったと思えるように、これからもしっかりと復興していかなければならないと思っています。



ロータリー財団寄付者

- 津野順子 ■ 白岩邦俊 ■ 味戸誠一郎 ■ 橋本弘幸
- 采女真弓 ■ 小林悦子 ■ 大山三起雄 ■ 佐藤功一

米山記念奨学会寄付者

- 鈴木かおる ■ 味戸誠一郎 ■ 橋本弘幸 ■ 佐藤功一

ポリオ寄付者

- 橋本弘幸 ■ 蔭山寿一

閉会点鐘